

令和4年度 西砂学習館運営協議会（令和5年1月）会議録（案）

日 時：令和5年1月13日（金）午後6時00分～午後8時40分 （敬称略）

出 席：大橋 加藤 内金崎 小笠原 長谷川 岩元 能村 小林 森

欠 席：増田 広瀬

事務局：石川 田中 俣本

1 開会のあいさつ

大橋：12月27日のウインターイベントは皆さんの協力があり無事に終了した。1月8日は地域の賀詞交換会に係長と参加した。そこで地運協の活動内容、子どもの居場所づくりや学びの支援に特に力を入れている旨、地域学校コーディネーターとの情報交換会についてお話した。学校が必要としている人材や情報と学習館が持つ財産をドッキングできたらと地域の方に知って頂きたいとお伝えした。西一元氣通信第8号には、前回森委員からお話があったこともあり、地域学校コーディネーターとの情報交換会を記事にした。西砂川地区青少健からは地運協と一緒に何かアクションを起こすことを考えても良いのではというお話もでている状況。支える団体が多くなり、少しずつ撒いてきた種が実りつつあることを実感している。

2 令和4年度地域活性化講座について

(1)「認知症予防講座」について

日 時 3月4日（土）午前10時～11時30分

講 師 北部西かみすな地域包括支援センターの皆様及び

岩元 喜代子 氏

内 容 前回と同様

申込開始日（一般の方）2月10日（金）より（西一元氣通信を見た）と言えば先行予約あり

石川：毎年北部西かみすな地域包括支援センターの皆様と岩元委員を講師に依頼している。

岩元：音楽療法士の知人に同席して頂きその方を中心に行う。手話の研究もされている方で私よりより効果的なお話があるかと思う。

(2)「西砂ウインターイベント」について

日 時 12月27日（火）

参加児童数 午前：22名、午後：12名 合計34名

スタッフ合計 25名（講師、ボランティア、委員、職員）

会計報告 サマーイベント残金7,117円を使い切りました。（回覧参照）

石川：無事に終了した。詳しくは会長作成の報告が分かりやすい。評判が良かったので来年度も実施できればと思う。

大橋：西砂書道愛好会の皆さんもこのような形で子どもと関わりステップアップできたかと思う。来年度に向けて感想や次回に生かせることを会の皆さんにお聞きしたい。

小林：子どもと仲良く指導できれば一番良いと思った。初めてなので皆が緊張していた。

田中：凧作りは大根田さんと調整し2つ作成した。

森：当日は調理を担当。多くの方の手伝いがありとてもスムーズにいった。お皿の片付けも使い捨て容器を使い少ない時間でできた。小さなおにぎりは子ども達が喜んでいた。お味噌のおにぎりも手作り味噌で人気だった。お習字、凧作りと充実した楽しい一日を過ごして頂けたと思う。

大槁：人がたくさん集まりできた。調理はこいけ先生が中心になりスムーズであった。広報の成果もあったのではと思う。サマーイベントも色々な人が加わり皆で子どもを支えているという気運になると良い。たくさんの人にお手伝い頂き良い一日になった。更にこうしたら良くなるという意見があれば事務局まで連絡頂けたらと思う。

3 協議、報告及び連絡事項

(1) 前回の議事内容の確認（議事録）

大槁：何かあれば事務局へ。

(2) 生涯学習関係職員研修会の開催について

- ・日 時 令和5年1月17日（火） 午後2時～午後4時
- ・会 場 市役所本庁舎 101 会議室
- ・内 容 生涯学習推進審議会について
- ・講 師 東京学芸大学 倉持 伸江 准教授
- ・参加表明 岩元、広瀬、加藤 【敬称略】

(3) 「第2回西砂川地区地域学校コーディネーター及び西砂学習館地域運営協議会委員の情報・意見交換会」について

- ・日 時 令和4年12月17日（土）午後6時00分～8時00分

【敬称略】

- ・参加者 地域学校コーディネーター：岩元 鈴木 平山 松澤
運営協議会委員：大槁 加藤 小笠原 広瀬 能村 小林 森
- ・会議録について（確認）

石川：委員に会議録を確認して頂き地域学校コーディネーターへも確認して頂く。その後学校へ報告をする。3月中実施に向けて次の開催日を決めたい。

大槁：関係をより深いものにしていけたら良い。

(4) たちかわ市民交流大学 公募型単体企画型講座の西砂学習館での開催について

- ・1件の応募があり、認められました
⇒西砂パソコン倶楽部 3月5日（火）、3月6日（水）開催

石川：市民交流大学系の管轄だが地運協に報告するという手順がある。

(5) 「西一元氣通信」第8号について

石川：内容について何も無ければ印刷し1月20日には発行したい。

大槁：文面が多くて読んで頂けるか心配。地域全体を考え一般の方の疑問を記載した。

小笠原：学社一体は一人歩きしている。実際の活動や関わっている人について発信をすることでお互にかかかってくれたら発行する意味になる。

大橋：地域学校コーディネーターが何をする人で誰が決めたのかを地域の人には知らない。是非地域の人に分かって頂きたいと思った。

（６）フリースペースについて（協議）

小笠原：コロナとインフルエンザで気を張っているが、感染対策に対して消毒やマスク不要の意見も出てきた。その中で子どもの健康を守ることを優先にし、調理実習とおやつの持込は不可にしている。但し、ランチスペースにて昼食をとることは可能にしている。フリースペースについて。フリースペースは皆で調理し皆で食べる「調理実習」として現状は捉えている。元々のフリースペースは子どもの居場所として地運協でスタートした事業。その原点にもう一度帰り子ども達への支援で何が相応しいのか考え直す良い機会にしたい。児童館としては主管課のOKがあれば調理実習が可能になる。調理実習は児童館が事業としてやらなければならないこと。そこにフリースペースを当てるのは失礼になると思っている。

小林：フリースペースの調理内容は子ども達の希望に沿って考えていた。

大橋：児童館でのフリースペースに地域の大人が入り支援している感覚はあるが、この活動は地運協が考えるフリースペースなのか、そうならばどうして地運協委員がいないのか、フリースペースの活動経費は地運協からは出ていない等を考えると、名前だけフリースペースが続いているのではと思いこれは地運協の活動なのか悩む時がある。もう一度確認をしたい。児童館は児童館でやるべきこともある。フリースペースをまた地運協に戻すか。子ども達の学びや食の支援、居場所づくりで1回でも多く活動しようと現在取り組んできている。それとフリースペースの兼ね合いは違うものなのか。フリースペースを地運協委員でやっていけるのか。本気になって取り組まないと片手間ではできない事業。

田中：当初のフリースペースは毎週土曜の午後西砂学習館第1実習室で開催をしていた。

小林：当時は食事ではなくおやつを提供していた。

田中：最初のフリースペースは何をしても良い場所だった。勉強する子、遊ぶ子、何もしない子様々だった。当時は児童館にも行けない子が来ていたがたくさんの子どもは来ていなかった。多くて10名。学年は小学生から中学生。スタッフは地運協委員が2名以上で行っていたが、毎週土曜日の午後に委員が集まるのが難しいという話になり、当時の児童館館長に相談し児童館に移った。

加藤：フリースペースで子ども達と知り合いになり外で会うと声を掛けてくれる良さがあつた。フリースペースは子ども達が自由に来られる場所だった。当時のメンバーで毎週土曜日の対応が難しく運営が大変だった。結果的に児童館に移った。

大橋：趣旨はよく分かった。実際にフリースペースに来て救われた子どももいた。運営としては地運協委員では無理があり最終的には児童館に移した。児童館の館長がどんどん変わり発足当時とは違う活動で、今は調理を楽しむことが優先になっている。以前の誰でも来て良いというのが違う形態になった。地運協も積極的に関わるというより、地域の人として入っている。思いはあるが地運協委員の人数で毎週土曜日を賄うのは難しい。取り込まないといけない人はたくさんいる。スクールカウンセラーから情報を集めどう支援したら良いか真剣になって考えないと簡単にはできない。

岩元：六中、七中に学習支援で関わっている。現状不登校のお子さんは多い。中学を卒業す

ると学校としてその子どもに関わることはできない。なので、卒業後に地域に居場所があると良いとお話があった。最初の意味のフリースペースがあると学校に来られない子どもの居場所になる。どのような形ならできるのかを探っていきたい。

大槌：地域がネットワークで繋がり人が集まるとできる活動。この委員だけでやろうとするから難しい。地域に協力を求めていくのかなと思う。一番の母体である青少健にこの課題を知って頂き地域で解決していくのが良いか。

岩元：にこにこサロンに行っている不登校のお子さんもいる。

内金崎：にこにこサロンは稼働して2年目になる。

小笠原：児童館としては地運協の事業としてフリースペースを立ち上げた以上、児童館が主体的に運営することはできないし、今のニーズに合っているかという疑問もある。現在小学生の帰宅時間が非常に遅い。コンビニに7時過ぎまでいる子どももいる。親が帰って来ないから家に帰るなど言われている子どももいる。でも児童館では小学生は6時までしかいることができない。この課題とフリースペースを繋げる気持ちは無いが、今の子どもの地域課題は食より居場所となっていると感じている。子どもだけで夜の時間をいるのが多くなっている。フリースペースの原点に立ち返ると安定的な場所、人材、予算が必要になる。単発なのか、継続なのかでも違ってくる。

内金崎：夜間の子どもの預かり場所について、2地区で午後8時半位まで面倒を見る場所があり社会福祉協議会が関わっている。ニーズはある。昔を踏襲しつつ、今のニーズに即した内容を考えても良いと思う。不登校の子どもは1クラス3人くらいいる。何かしらのサポートをしないと現状のままになる。地運協だけで取り組むのか、他団体を巻き込むのか。1から団体を立ち上げるのか。まずはフリースペースのスタイルをどうするか考えたい。

小笠原：夜間の子ども達の居場所については、3月地域交流会で議題にする予定。そこでの意見を踏み台にして検討することも可能。それでなければ、地域学校コーディネーターとの情報交換会で提案することも考えている。

大槌：地運協だけでやるのは難しい話。実際には場所や人材、回数を考えるとどこかで誰かと一緒に話し合いが必要。協力者を広げるようにしなければ難しい。

岩元：松中小の放課後子ども教室は何時まで開いているのか。

小笠原：午後4時半。子ども達にとって大きな居場所にはなっている。

森：フリースペースの立ち上げのことは知らなかった。今日初めて理解した。大変なことを乗り越え続けてきたのだと思った。最初に戻ると、児童館でフリースペースを行うか。都合の良い言い方だが、児童館の活動にフリースペースを加え地運協としてどう支援ができるか。まずは児童館にお任せし自分達のできる方法を別途探るのが良いのか。

小笠原：児童館主体で調理を含んだ子ども達の居場所づくりの企画はやらなければいけない。地運協としてフリースペースの元々の意義を残して続けるには新しい形態でやらないと難しいのではと思った。

岩元：子ども達の居場所づくりを地運協だったらどうできるか。フリーの居場所を作っていくことは地運協としてやっていきたいということか。フリースペースはここではじまったこと。フリースペースの活動としてサマーイベントやウインターイベントがあれば良いのか。中学卒業後の子どもの居場所はまた別になる。

大橋：フリースペースの言葉を活かしたいのか。子どもの居場所をどう支援したら良いのか。これから青少健と地域で子どもをどう支えるかを話していこうとしている。3月の児童館開催の会議で児童館の考えを提案して頂けたら地域でどう支えるか大きな組織で進めていけるかと思う。

加藤：フリースペースの発足時は子ども達の夜の居場所の話はなかった。当時と変わってきている。

岩元：学習館ロビーに子ども達が集まり勉強をしている。夜にロビーを子ども達だけで利用するのは問題あるか。

石川：特に無い。

田中：幸学習館、砂川学習館、西砂学習館と3館いた。昔の西砂学習館は部屋の稼働率が低かったが今は稼働率が一番高く部屋をキープすることは難しくなっている。来年度は行政利用で子どもの学習支援として午後から夜間の第一実習室は毎週予約が入っている。新たに部屋を確保するのは明らかに難しくなっている。単発だからできるというのが現状。単発で行うのが部屋の確保でいうと良い。場所確保は課題。ロビーは良い。学校等共用施設は行政利用で予約は可能。

大橋：実際には何か形にする為に、時間や場所などの問題がでてくる。どこかでメンバーを集め会議を設けて詰めていかないと形にはならない。地域で取り組んでいこうという皆の思いを確認することができた。

石川：西砂学習館の稼働率が多いが保育室の稼働率は低い。誰か1人でも大人がいればフリースペースとしてなるのではないか。

田中：保育室の稼働率について、コロナ前は年間100件の利用があった。コロナ禍では稼働率は低くなっている。

石川：夕方の居場所としては使えるのではと思う。隔離されているので怖さはある。

大橋：体制として大人1名ではなく2名は大事。今情報として保育室があるとわかった。

森：最初の小笠原委員の提案に戻すと、今のフリースペースは結論としてどうするか。

小笠原：児童館の都合で押し戻してしまう心配がある。

大橋：どこかで実態を提案して頂き、それを受け止めてスタートしたい。児童館が子どもと直接関わっている。どのような組織でどう会議を進めるかを今後考えていきたい。

加藤：原点に戻ると場所があれば良いと思ったが、フリースペースを続けられなくなった理由は人員の確保だった。同じ問題は残っている。

大橋：賛同者を集めないといけない。

岩元：今後改めて検討するという事で終わるのが良い。

小笠原：子どもの居場所がフリースペースと認識している。時間をかけて、事業を考えるのが今日の結論。

岩元：対象になる子どももバラエティにとんでいる。漠然と子どもの居場所といっても一筋縄にはいかない。課題も整理しないと論点が見えない気がする。次回課題の抽出ができればと思う。

森：児童館やにこにこサロンがあるが、その場所ではどのような子どもが対象になっているのか分からない。そこから示して頂き、その隙間に私達が入るか、実際はどうかかというところを一度勉強しなければと思う。

大橋：その話を地運協として進めるか。

森：このような場所があるということは資料としてあると良い。

大橋：たくさんの方がいる中で進めることと思っている。

内金崎：地運協でやるのと、地域でやるのを分けて進めると思った。

岩元：地域でやるのは誰が中心になり進めるのか。

大橋：それを作っていくので時間はかかる。青少健にまずお話をする。地域課題は大きな組織でないと解決できないと思う。組織を一步一步作り解決することと思っている。

森：フリースペースの名称は変更しても良い。

大橋：架空の組織だがそこで考えないと難しいと思う。

内金崎：全体としてやることとそれを聞いて地運協として何をするかを考えていくのが良い。

(7) きらりたちかわ講座ガイド「学習館探訪」の記事について

石川：気になる点があればご連絡下さい。

(8) 各委員から報告及び連絡事項（報告）

長谷川：1月8日は3年ぶりの賀詞交歓会を開催。コロナ禍でお弁当と飲み物は持ち帰りとした。市長、議員、PTA等から新年のご挨拶を聞くことができた。

青少健のウインターイベントやサマーイベントの関りについて。名前だけでなく今後どうしたら良いかという話が青少健で議題にあがった。委員がたくさんいるので、そこで話を伺い少しずつ協力者を増やし確認しながら協力できることはしていこうという話がでている。

加藤：来年度の講座や講演会の議論をしている。講座数はコロナでだいぶ減っている。講演会の候補が2つある。1つはウクライナからの留学生でウクライナのことを知って頂く観点で話をしている方。5月6日に実施予定。もう1つは豊泉さんの講演会。立川ユネスコ協会では2月11日平和のコンサートを国立音楽大学と開催。財政を考える会では毎月学習会を行っている。1月22日は防災課長にお話を頂く。

内金崎：チラシ参照。国から補助金があり、生活にお困りの方や生活でお困りの方を支援している団体を対象に支援をしている。近くで困っている方がいればお声がけ下さい。

小笠原：冬休みが終わった。子ども達はコロナとインフルエンザの流行で目が離せない。児童館での書初めは都立武蔵村山高等学校の書道部に来て頂き毛筆体験を行った。絵を描く子や字を書く子、ただ塗る子がいて自分達が考える以上の成果があった。3月のこどもまつりでは書道パフォーマンスもお願いしている。指定管理の期間について、特命更新で更に3年間指定管理者となった。3月7日児童館地域交流会を予定。夜間の子どもの居場所や児童館を含める近隣への騒音について忌憚のない意見をお聞きしたい。

岩元：西砂川地区文化会では1月29日うどん作り大会を行う。コロナを考えるとお手伝いの方は高齢者が多いので心配。1月19日定例会を予定。文化会役員の退任を考えている。

小林：ウインターイベントに西砂書道愛好会が初めてお手伝いで参加。最初は心配していたが子どもは穏やかで一生懸命取り組んでいた。自分にとっても良い勉強になった。

能村：1月11日市民推進委員の全大会があった。地運協についての報告では地域学校コー

ディネーターとの会合について説明をした。ほかの委員からは会合の内容について質問があった。きりり冬号が発行。今は春号2ページを担当している。

森：今月講座を予定。2月はエクセル講座、3月は団体企画型講座でパワーポイントを予定。現在テキストを作っている。先日書初めをする機会があった。年の初めに書くのは良いなと思った。

俣本：西砂寿教室では、1月12日新年のつどいを一番福祉会館で行った。時短でお菓子は持ち帰りで行ったが皆楽しそうにひと時を過ごしていた。

田中：ウインターイベントでは凧作りを担当した。子ども達が喜んでいて良かった。今日は柴崎福祉会館へ行き竹をたくさん頂いた。大根田さんは竹細工も得意。サマーイベントで水鉄砲、冬なら門松もできる。

石川：来年度の学習館まつりの準備がはじまる。2月8日実行委員会がある。実行委員会形式になり内容は利用団体の意見を反映している。アトラクションは国立音学大学の学生で検討している。

大橋：文化会の初笑いうどん作り大会は参加者が集まらないので今回は辞退する。

4 その他

○ 次回の地域学習館運営協議会の日程について

※ 次回開催；次回は、2月9日（木）

<配布資料>

- ・〈資料1〉令和4年度 西砂学習館事業予定
- ・〈資料2〉西砂学習館運営協議会 令和4年度地域活性化講座（案）
- ・西砂ウインターイベントアンケート集計
- ・西一元氣通信 第8号
- ・学習館探訪「西砂学習館」（案）（三上様よりご提供）